

盆栽をやってみよう

1 何から始めたらよいか

生活環境や好みの樹種、丈夫な樹種を考えて、まず最初は丈夫で育てやすい樹種から始めるのが良いでしょう。

例えば花の好きな方ならばサツキ、ボケ、花カイドウなど。常緑樹の盆栽なら五葉松、黒松、真柏、一位など。

いつも手をかけていたい方ならばモミジ、カエデ、ケヤキなどが良いでしょう。これらは手をかけてやる程早く良くなります。

2 盆栽を入手する方法

A. 若木を求めて、どこで、選び方、値段？

気をつけていると(社)日本盆栽協会の支部が各地で年1～3回の展覧会を開きます。こんな時に付属の売店があれば若木や苗木を購入する事ができます。またデパートの園芸品、盆栽売場やガーデンセンター、時には農協、各地に点在する盆栽業者の所でも若木を扱っている所があります。1～3年の苗木ならば10本2～3000円で購入できます。1本ずつ植えられた若木ならば2～3000円で購入できるでしょう。

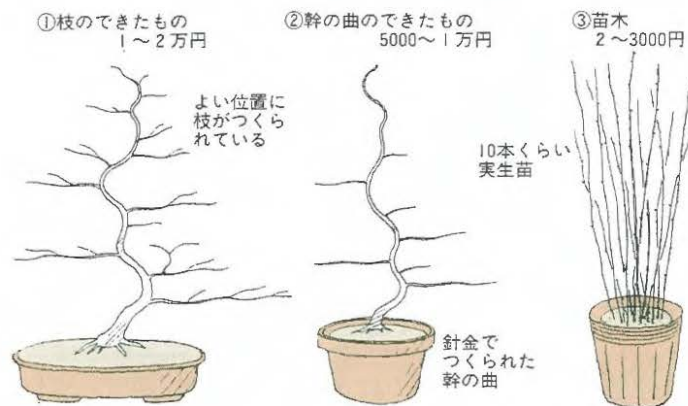
苗や若木を購入する時の注意は、素直で根や枝が多く、あまり傷がないものを選ぶ事です。

B. ある程度形の整ったものから、購入先の選び方

初めはAの注意の他、幹が元から先へ順に細くなり元気が良く、

虫喰いや病気のあとのない木が良いと思います。購入先は前頁の項に述べた通りです。

値段で見ると 素材購入例



3 種子から育てる

植物を種子から育てる事を実生法みしょうぼうと言います。多くの樹種は秋に実った種子を種類によって乾燥させて冷暗所に貯蔵するか、湿った砂にまぜて冷暗所で貯蔵します。そして三月中に土にまき、種子の大きさの三倍の覆土をします。土表が乾いたらたっぷり灌水します。

ドングリやサクラ、モモ、ウメなどはとりまきと言って収穫後すぐにまきます。これらの種子は乾燥させると発芽しません。

まいた種子が発芽したら日当たりの良い所で管理します。次年の春一本ずつつけて長い根を切り小鉢か箱に10cm位の間隔で植え

付けます。植え付けて1カ月後から少しずつ肥料を与えます。一～二年後の芽出し前から剪定を始め形を整えて行きます。

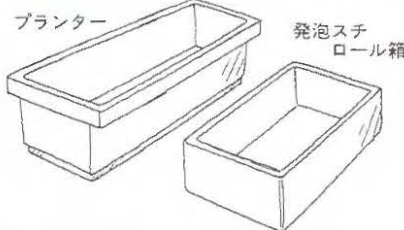
種子の保存



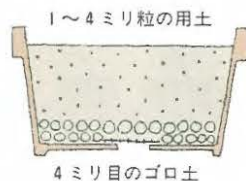
付けます。とり出した穂の下部に発根剤をつけ2～3cmを土中に直立して挿します。十分灌水したら日当たりの良い所におきます。表面が乾いたら十分に灌水します。

挿し木

挿し床の用意



用土

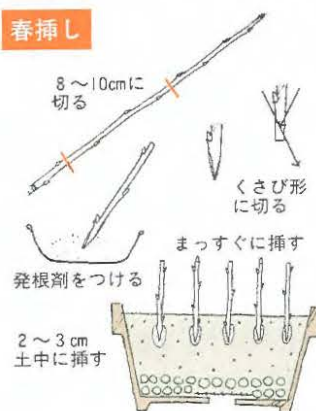


4 挿し木で育てる

樹種により活着率が難易の差はありますが90%位の樹種は挿し木でふやす事ができます。挿す時期は春と夏に分かれます。春挿しは主に落葉樹で葉が出る前に行います。挿し床はプランターや仕立て鉢または地面でもよく、土は肥料気のない清潔な土（鹿沼土、赤玉土、砂、パーライトなど）です。土の表面を平らにならし、手で軽く押さえておきます。

3月下旬に前年に出た枝を8～10cmに切り良く切れるナイフでくさび型に切りベンレート又はトップジンの500倍液に10分程つ

春挿し



夏挿し

